

10/566991

PCT/JP2004/011732

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

10.8.2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application:

2003年 8月27日



出願番号  
Application Number:

特願2003-303637

[ST. 10/C]: [JP2003-303637]

出願人  
Applicant(s):

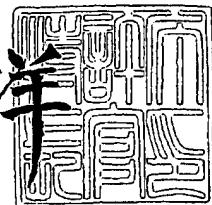
オリエント化学工業株式会社

PRIORITY DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH  
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 9月10日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

小川洋



出証番号 出証特2004-3081618

【書類名】 特許願  
【整理番号】 K-394P  
【提出日】 平成15年 8月27日  
【あて先】 特許庁長官 殿  
【国際特許分類】 B29C 65/16  
【発明者】  
【住所又は居所】 大阪府寝屋川市讚良東町8番1号 オリエント化学工業株式会社  
内  
【氏名】 山本 聰  
【発明者】  
【住所又は居所】 大阪府寝屋川市讚良東町8番1号 オリエント化学工業株式会社  
内  
【氏名】 油科 平八  
【発明者】  
【住所又は居所】 大阪府寝屋川市讚良東町8番1号 オリエント化学工業株式会社  
内  
【氏名】 岡西 俊泰  
【特許出願人】  
【識別番号】 000103895  
【氏名又は名称】 オリエント化学工業株式会社  
【代表者】 高橋 昭博  
【代理人】  
【識別番号】 100088306  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 小宮 良雄  
【選任した代理人】  
【識別番号】 100126343  
【弁理士】  
【氏名又は名称】 大西 浩之  
【手数料の表示】  
【予納台帳番号】 014719  
【納付金額】 21,000円  
【提出物件の目録】  
【物件名】 特許請求の範囲 1  
【物件名】 明細書 1  
【物件名】 図面 1  
【物件名】 要約書 1  
【包括委任状番号】 0310574

## 【書類名】特許請求の範囲

## 【請求項1】

熱可塑性樹脂100重量部と、屈折率2~2.8の白色顔料0.1~2重量部とを含有する樹脂組成物で、白色、灰色又は淡彩色である白色系の色相を示しているレーザー光透過性の樹脂部材を形成し、それへ、レーザー光吸収性を少なくとも部分的に有し得る樹脂部材を、重ね合わせた後、レーザー光を照射することにより、熱溶着させることを特徴とするレーザー溶着方法。

## 【請求項2】

前記レーザー光吸収性を少なくとも部分的に有し得る樹脂部材が、熱可塑性樹脂99.1~98重量部と屈折率2~2.8の白色顔料0.1~2重量部とを含有する樹脂組成物で形成されており、白色、灰色又は淡彩色である白色系の色相を示していることを特徴する請求項1に記載のレーザー溶着方法。

## 【請求項3】

前記レーザー光吸収性を少なくとも部分的に有し得る樹脂部材が、800~1200nmの波長領域で少なくとも一部のレーザー光を吸収する吸収剤を含有するレーザー光吸収層と、それが付されている白色系樹脂材とからなることを特徴とする請求項1に記載のレーザー溶着方法。

## 【請求項4】

前記レーザー光透過性の樹脂部材の屈折率が1.5~1.8であることを特徴とする請求項1に記載のレーザー溶着方法。

## 【請求項5】

前記レーザー光透過性の樹脂部材と、前記前記レーザー光吸収性を少なくとも部分的に有し得る樹脂部材の白色系樹脂材との色差△Eが、0.3以下であることを特徴する請求項3に記載のレーザー溶着方法。

## 【請求項6】

レーザー光透過性の樹脂部材中、前記白色顔料の平均粒径が100~300nmであることを特徴とする請求項1記載のレーザー溶着方法。

## 【請求項7】

前記レーザー光吸収層が、前記レーザー光の吸収剤を含有するインク又は／及び塗料を塗布して形成されたものであること特徴とする請求項3に記載のレーザー溶着方法。

## 【請求項8】

前記インク又は／及び塗料は、アルコール系溶剤又はグリコール系溶剤を主溶剤としていることを特徴とする請求項7に記載のレーザー溶着方法。

## 【請求項9】

前記レーザー光吸収層が、前記レーザー光の吸収剤を含有する樹脂フィルムであることを特徴とする請求項3に記載のレーザー溶着方法。

## 【請求項10】

前記レーザー光の吸収剤が、カーボンブラック又は／及びニグロシンであることを特徴とする請求項3に記載のレーザー溶着方法。

## 【請求項11】

走査しつつ照射している前記レーザー光によって与えられるエネルギー量x (J/mm)が下記式

## 【数1】

$$x = \frac{p \times T}{100 \times q} \geq 0.9$$

(式中、p (W) はそのレーザー光の出力、q (mm/秒) はそのレーザー光走査速度、Tは前記レーザー光透過性の樹脂部材のこのレーザー光の波長での透過率を示す)  
を満たすことを特徴とする請求項1に記載のレーザー溶着方法。

【書類名】明細書

【発明の名称】レーザー溶着方法

【技術分野】

【0001】

本発明は、半透明ないし不透明で白色、灰色又は淡彩色の白色系の色相を示すレーザー溶着用樹脂部材を、レーザー光により溶着する方法に関するものである。

【背景技術】

【0002】

熱可塑性樹脂部材を接合するために、レーザー溶着、振動溶着、超音波溶着、ボルトによる締結、又は接着剤による接着などが行なわれる。

【0003】

溶着のうち、レーザー溶着は、レーザー光吸収性樹脂部材上にレーザー光透過性樹脂部材を重ね、その上から照射したレーザー光が、透過性樹脂部材を透過し、吸収性樹脂部材に到達して吸収され発熱を起こし、両樹脂部材を熱溶融させることにより接合するというものである。

【0004】

レーザー溶着は、振動溶着や超音波溶着に比べ、振動による応力や過熱に曝される恐れがないうえ、レーザー光を照射するという簡単な操作で、溶着の際にバリを生じることなく、複雑な形状の樹脂部材同士を充分な強度で歩留まりよく接合できるものである。そのためレーザー溶着は、樹脂部材を精密に接合すべき精密機械・電子部品・医療器の製造過程で好適である。

【0005】

このようなレーザー溶着として、例えば特許文献1及び2には、無色透明、無着色又は黒着色のレーザー光透過性樹脂部材と、不透明又は黒着色のレーザー光吸収性樹脂部材との溶着が開示されている。従来の透明な透過性樹脂部材と不透明な吸収性樹脂部材の溶着では、溶着部位が透けて見えるため、実用範囲に制限がある。また透過性樹脂部材と吸収性樹脂部材とが異色同士や黒色同士である溶着では、色相が限定されてしまう。

【0006】

樹脂部材の溶着して製品を製造する場合、需要者の嗜好に合わせ、清潔感のある綺麗な白色系同士の樹脂を溶着する必要性が高い。しかし、従来の白色顔料を含有させた白色の樹脂部材は、レーザー溶着しようとしても、顔料がレーザー光を反射したり分散したりさせ易いために、レーザー光を十分に透過させることができず、レーザー溶着強度が不十分となってしまっていた。そのため、白色系色相の樹脂部材同士を綺麗で強固にレーザー溶着することができる方法が望まれていた。

【0007】

【特許文献1】特表平 9-510930号公報

【特許文献2】特開平11-170371号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0008】

本発明は前記の課題を解決するためになされたもので、外観上、可視光線の反射率が高く半透明性ないし不透明性であって、白色や灰色のような無彩色、又は淡赤や淡青や淡黄や乳白色のようなパステルカラーとよばれる淡彩色である白色系色相を示すレーザー溶着用樹脂部材を、レーザー光照射することにより簡便に溶着することができるレーザー溶着方法を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0009】

前記の目的を達成するためになされた本発明のレーザー溶着方法は、実施例に対応する図1を参照して説明すると、熱可塑性樹脂100重量部と、屈折率2~2.8の白色顔料0.1~2重量部とを含有する樹脂組成物で、白色、灰色又は淡彩色である白色系の色相

を示しているレーザー光透過性の樹脂部材1を形成し、それへ、レーザー光吸収性を少なくとも部分的に有し得る樹脂部材2を、重ね合わせた後、レーザー光3を照射することにより、熱溶着させるというものである。

#### 【0010】

屈折率がこの範囲にある白色顔料を用いたレーザー光透過性の樹脂部材1は、白色顔料が少量であっても、明瞭で綺麗である良好な白色を示し、隠蔽性が高い。このような白色顔料は、例えば、酸化亜鉛、酸化チタン、及び／又は三酸化アンチモンである。酸化亜鉛として、例えばC. I. Pigment White 4、二酸化チタンとも称される酸化チタンとして、例えばC. I. Pigment White 6、三酸化アンチモンとして、例えばC. I. Pigment White 11が挙げられる。これらは、多くの種類の市販品が入手可能であるが、その中から適宜選択して用いられる。その中でもルチル形酸化チタンであると一層好ましい。白色顔料が表面処理されていてもよい。

#### 【0011】

また白色顔料の量が、この範囲未満であると、レーザー光透過性の樹脂部材1の色相が外観上、充分な白色系を示さなくなってしまう。一方、この範囲を超えると、レーザー光透過性の樹脂部材1のレーザー溶着の際に、白色顔料のレーザー光の吸収や反射散乱の量が多くなる結果、レーザー光が充分に透過できなくなり、溶着が不完全になってしまう。白色顔料が0.2～1.5重量部であると一層好ましい。

#### 【0012】

このレーザー溶着方法は、前記レーザー光吸収性を少なくとも部分的に有し得る樹脂部材2として、熱可塑性樹脂99.1～98重量部と、屈折率2～2.8で前記と同様な白色顔料0.1～2重量部とを含有する樹脂組成物で形成されており、白色、灰色又は淡彩色である白色系の色相を示すものが用いられていてもよい。

#### 【0013】

前記レーザー光吸収性を少なくとも部分的に有し得る樹脂部材2として、図2又は図3に示すように、800～1200nmの波長領域で少なくとも一部のレーザー光を吸収する吸収剤を含有するレーザー光吸収層8又は9と、この吸収層8又は9を付した白色系樹脂材7とからなるものが用いられてもよい。

#### 【0014】

このレーザー溶着方法によれば、前記レーザー光透過性の樹脂部材1と、前記レーザー光吸収性を少なくとも部分的に有し得る樹脂部材2の白色系樹脂材7との色差△Eを0.3以下、好ましくは0.2以下とすることができます。これにより、互いに近似する白色系の色相を示す部材1・2同士の溶着物を、簡易に得ることができる。

#### 【0015】

この方法によれば、レーザー光透過性の樹脂部材1は、白色顔料以外の着色剤を含有していない場合に白色度の高いほぼ真白の色相を呈すので、白色の樹脂部材として、レーザー溶着を施すことができる。

#### 【0016】

また、レーザー光透過性の樹脂部材1は、白色顔料と共に黄色、赤色、青色、緑色、黒色などを呈するレーザー光透過性着色剤を含有している場合に、この着色剤の色相と白色顔料の呈する白色とが混色して、外観上、白色系色相を呈すので、白色系の樹脂部材として、レーザー溶着を施すことができる。レーザー光透過性の樹脂部材1は、例えば黒色着色剤を含有していると灰色のような無彩色の白色系色相を呈し、黄色、赤色、青色、緑色のような有彩色の着色剤を含有していると、淡黄ないし乳白色、淡赤、淡青、淡緑のようなパステルカラーとよばれる淡彩色の白色系色相を呈する。

#### 【0017】

このレーザー溶着方法は、前記の黄色、赤色、青色、緑色、黒色などを呈するレーザー光透過性着色剤として、公知のアゾ系染顔料、アゾ系含金染顔料、ナフトールアゾ系染顔料、アゾレーキ系染顔料、アゾメチン系染顔料、アントラキノン系染顔料、キナクリドン系染顔料、ジオキサジン系染顔料、ジケトピロロピロール系染顔料、アントピリドン系染

顔料、イソインドリノン系染顔料、インダンスロン系染顔料、ペリノン系染顔料、ペリレン系染顔料、インジゴ系染顔料、チオインジゴ系染顔料、キノフタロン染顔料、キノリン系染顔料、ベンズイミダゾロン系染顔料、トリフェニルメタン系染顔料等の有機染顔料を用いることが好ましい。前記着色剤1種又は2種以上を組み合わせて用いてもよい。例えば、黄色着色剤と青色着色剤とを組合せて、緑色着色剤にしたり、青色着色剤と赤色着色剤とを組合せて、紫色着色剤にしたり、黄色着色剤と紫色着色剤とを組合せて、黒色着色剤にしたりしたものを用いることができる。このような着色剤は、マスター・バッチとして、市販されているe B I N D L T W - 8 1 0 1 、同 8 1 7 0 、同 8 1 8 0 、同 8 2 0 0 、同 8 3 0 0 、同 8 7 0 0 など（いずれもオリエント化学工業社製の商品名）であってもよい。

## 【0018】

このレーザー溶着方法によれば、このレーザー光透過性の樹脂部材の色相は、L \* a \* b \*表色系で表されるL値とa値とb値とから下記式（I）

## 【数1】

$$W_1 = 100 - \sqrt{(100-L)^2 + (a^2 + b^2)} \quad \cdots (I)$$

により算出される白色度W<sub>1</sub>を少なくとも50とすることができます。

## 【0019】

この白色度は、白色の度合いと隠蔽性とを判定する指標となる。白色度が60～80のものは、半透明性ないし隠蔽力が低いやや不透明性で樹脂材料となる。このような樹脂材料を用いたのレーザー溶着された材料は、ファッション性・嗜好性の点で需要の多い製品を製造するような用途に向いている。特に淡赤や淡青や淡黄や乳白色のようなパステルカラーとよばれる淡彩色を示すものが適している。

## 【0020】

また、白色度が80以上、好ましくは85～95の範囲のものは、不透明性であり隠蔽力が高いので、レーザー溶着により透過性樹脂部材内に内包される内容物の隠蔽、保護、保存の必要があるような用途に向いている。

## 【0021】

このレーザー溶着方法によれば、レーザー光透過性を有する樹脂部材1は、適量の白色顔料を含んでいるので、レーザー溶着に充分な量のレーザー光を透過させることができると、充填剤を含まなくとも充分な成形性と溶着強度とが得られる。また、この方法によれば、この樹脂部材1が、用途と目的に応じて、着色剤や、成形性と強度とを一層向上させるための充填剤や、難燃剤のような、レーザー光を吸収したり拡散したりし易い添加剤が更に含有しても、レーザー溶着に充分な量のレーザー光を透過させることができるので、汎用性がある。

## 【0022】

このレーザー溶着方法は、レーザー光透過性の樹脂部材として、その屈折率を1.5～1.8とするものを用いると、レーザー光透過性が一層良くなるので好ましい。

## 【0023】

レーザー光透過性の樹脂部材中の白色顔料は、その平均粒径が100～300nmであると、レーザー光透過性の樹脂部材が、充分にレーザー光を透過させつつ、半透明性から不透明性の外観を示し、レーザー溶着の仕上がりを綺麗にするので、好ましい。200～300nmであると、一層好ましい。この粒径範囲であると、着色力が高くなり、白色顔料の場合には白色度が高くなる。

## 【0024】

このレーザー溶着方法によれば、レーザー光吸収性を少なくとも部分的に有し得る樹脂部材2を構成する白色系樹脂材7の色相は、L \* a \* b \*表色系で表されるL値とa値とb値とから下記式（II）

## 【数2】

$$W_2 = 100 - \sqrt{(100-L)^2 + (a^2 + b^2)} \quad \cdots (\text{II})$$

により算出される白色度  $W_2$  を少なくとも 80 とすることができます。

## 【0025】

このレーザー溶着方法は、図2に示すように、レーザー光吸収層8が、前記レーザー光の吸収剤を含有する樹脂フィルム8で形成されたものであると、好ましい。

## 【0026】

このレーザー溶着方法は、図3に示すように、レーザー光吸収層9を、前記レーザー光の吸収剤が含有されるインク又は／及び塗料の塗布により形成するというものであってよい。

## 【0027】

このインク及び／又は塗料として、アルコール系溶剤又はグリコール系溶剤を主溶剤とするものが用いられると、好ましい。具体的には、1価のアルコール(例えば、エタノール、n-ブロパノール、イソブロパノール、n-ブタノール、アミルアルコール、ベンジルアルコール、シクロヘキサンオール及びジアセトンアルコールのようなアルコール；エチレンジリコールモノメチルエーテル、エチレンジリコールモノエチルエーテル、プロピレンジリコールモノメチルエーテル、プロピレンジリコールモノエチルエーテル、ジエチレンジリコールモノエチルエーテル、ジエチレンジリコールモノブチルエーテル及びジプロピレンジリコールモノエチルエーテルのようなグリコールのアルキルエーテル；エチレンジリコールモノアセテート及びプロピレンジリコールモノアセテートのようなグリコールのアセテート等)、及び2価のアルコール(例えば、エチレンジリコール、ジエチレンジリコール、トリエチレンジリコール、テトラエチレンジリコール、ポリエチレンジリコール、プロピレンジリコール及びブタンジオールのようなグリコール等)等が挙げられる。

## 【0028】

また、このインク及び／又は塗料として、用途及び目的に応じて、更に、レーザー溶着する樹脂部材の溶着を妨げるもの以外は例えば、溶解又分散樹脂、着色剤、分散剤、溶解安定剤、防腐剤、光安定剤などが用いることができる。

## 【0029】

また、このレーザー溶着方法は、レーザー光の吸収剤として、カーボンブラック及び／又はニグロシンが用いられると、好ましい。

## 【0030】

このレーザー溶着方法は、レーザー光透過性の樹脂部材として、半導体レーザーによる800nm付近から、YAGレーザーによる1100nm付近までにかけての波長、すなわち、レーザー溶着に用いるレーザー光の波長に対して、少なくとも10%透過させるものが用いられる。808nm、840nm、940nm、1064nmにおける赤外線透過率が、少なくとも15%であると好ましい。これより低いと、これらの波長のレーザー光が充分量透過できないため、レーザー溶着されたものの強度が不充分であったり、又は実用的に適さないレーザー光のエネルギーが必要とする。

## 【0031】

このレーザー溶着方法は、走査しつつ照射している前記レーザー光によって与えられるエネルギー量  $x$  (J/mm) が下記式 (III)

## 【数3】

$$x = \frac{p \times T}{100 \times q} \geq 0.9 \quad \cdots (\text{III})$$

(式(III)中、  $p$  (W) はそのレーザー光の出力、  $q$  (mm/秒) はそのレーザー光走査速度、  $T$  は前記レーザー光透過性の樹脂部材のこのレーザー光の波長での透過率を示す) を満たすことが好ましい。

## 【発明の効果】

**【0032】**

レーザー溶着方法によれば、反射率が高い半透明性ないし不透明性を示し、外観上、白色や灰色のような無彩色、又は淡赤や淡青や淡黄や乳白色のようなパステルカラーとよばれる淡彩色である白色系色相を示すレーザー溶着用樹脂部材を、レーザー光照射することにより、簡便にレーザー溶着させることができる。またレーザー光透過性樹脂部材とレーザー光吸収性樹脂部材との色差が少ない溶着物を得ることができる。この方法により、振動や熱を忌避して樹脂部材を精密に接合すべき、精密機械・電子部品・電化製品・医療器・日用品等の白色系の製品の熱可塑性樹脂製ハウジングのような部材の溶着を、簡易かつ確実に行なうことができる。

**【0033】**

このレーザー溶着方法によれば、微細で複雑な形状の部材同士であっても高い気密性を持たせつつ、再現性よく充分な強度で、歩留まりよく、簡便に溶着させることができる。白色系色相の部材同士をレーザー溶着できるので、幅広い製品について需要者の嗜好に応じた白色系の綺麗な色調の外観に仕上げることができる。更にこのようなレーザー溶着方法は、レーザー光光源を溶着部位に接触させる必要がなく、機械的振動等の応力に曝されず、粉塵等を発生させないうえ、局所的に加熱して溶着させてるのでその周辺部への熱影響がごく僅かであり、溶着部分が目視され難くその仕上がりが綺麗である。

**【発明を実施するための最良の形態】****【0034】**

以下、本発明のレーザー溶着方法の実施例を詳細に説明する。

**【0035】**

レーザー溶着方法の実施の一例について、図2に示すようなレーザー光透過性の樹脂部材1と、レーザー光吸収剤を含有する樹脂フィルムであるレーザー光吸収層8によりレーザー光吸収性を部分的に有する樹脂部材2とのレーザー溶着を例にして、説明する。

**【0036】**

先ず、レーザー光透過性の樹脂部材1を次のようにして試作した。熱可塑性樹脂と、白色顔料と、必要に応じ着色剤等の添加物とを、混合機で混合して、レーザー光透過性樹脂組成物を調製する。この組成物を押出成形、射出成形、圧縮成形等の成形方法で、図2のように、一端近傍で下面側が欠けて半分の厚さの段差4となった板状であるレーザー光透過性の樹脂部材1を成形する。一方、熱可塑性樹脂と、必要に応じ白色顔料や着色剤等の添加物やレーザー光吸収剤との組成物を、成形して、一端近傍で上側面が欠けて半分の厚さの段差5となっており、レーザー光吸収剤を含有していても含有しなくてもよい板状の白色樹脂材7を得る。

**【0037】**

次いで、熱可塑性樹脂と、レーザー溶着に用いるレーザー光の波長を吸収する吸収剤と、必要に応じて着色剤等の添加剤とを混合機で混合して、それを射出成形や押出成形のような成形方法で、図2のように、レーザー光吸収剤を含有する樹脂フィルム8を成形する。

**【0038】**

この樹脂フィルム8と、前記の白色樹脂材7が有する段差5とを、固定具又は加圧装置により重ね合わせると、レーザー光吸収性を部分的に有する樹脂部材2が形成される。

**【0039】**

図2のように、レーザー光透過性の樹脂部材1の段差4と、レーザー光吸収性の樹脂部材2の段差5とを、レーザー光吸収層である樹脂フィルム8を介して、当接させる。そこに、透過性の樹脂部材1側の上方から、レーザー光3を照射する（図1参照）。レーザー光3の一部は、透過性の樹脂部材1の段差4を通過し、レーザー光吸収性である樹脂フィルム8に到る。レーザー光が、吸収効率の高い樹脂フィルム8に吸収される結果、効率良く発熱を引き起こす。この熱により、透過性の樹脂部材1と、吸収性の樹脂部材2の白色樹脂材7とが、溶融し、樹脂フィルム8を介して、融合する。これを冷却すると、溶着部分6で、樹脂フィルム8を介して、透過性の樹脂部材1と吸収性の樹脂部材2とが、充分

な強度で、溶着される。

#### 【0040】

この実施例の場合、レーザー光照射のエネルギー量、樹脂フィルム8のレーザー光吸収率、レーザー溶着し易いレーザー光透過性の樹脂部材の樹脂の素材の選択、レーザー溶着を阻害しない添加剤や着色剤の選択、レーザー光透過性の樹脂部材の形状を考慮上、樹脂フィルム8の膜厚を適切に決めることが重要である。この実施例の利点は、樹脂フィルム8が光吸収剤を含有するため、吸収性の樹脂部材2を形成する白色樹脂材7の原料樹脂が、レーザー光透過性や吸収性を考慮しないで適宜選択した樹脂を用いることができる点である。

#### 【0041】

また、別な利点は、レーザー光透過性の樹脂部材1と、レーザー光吸収性を有し得る樹脂部材2との原料樹脂が、同一又は異なっていてもよい点である。これにより透過性の樹脂部材1と吸収性の樹脂部材2の白色系樹脂材7との色差△Eを0.3以下にすることができる。更に、レーザー光吸収剤である安価な黒色系のカーボンブラック、アニリンブラック、ニグロシンを含有する樹脂フィルム8を用いたとしても、レーザー光吸収性の樹脂部材1を通して樹脂フィルム8が見えないため、仕上がりが綺麗である。

#### 【0042】

以上、図2に示すレーザー溶着方法について説明したが、図3に示すように、レーザー光吸収層としてレーザー光吸収剤を含有するインキ又は／及び塗料の塗布層9によってレーザー光吸収性を部分的に有する樹脂部材2と、レーザー光透過性の樹脂部材1とのレーザー溶着方法であってもよい。レーザー光透過性の樹脂部材1の段差4上にインキ及び／又は塗料を予め塗布しレーザー光吸収層9とした後、白色系樹脂材7の段差5と当接させることにより、レーザー光吸収性を部分的に有し得る樹脂部材2及びレーザー光吸収性の樹脂部材1となし（不図示）、レーザー溶着する方法であってもよい。レーザー光吸収層である塗布層9は、例えばレーザー光吸収剤と必要に応じて樹脂を含有するインキ又は／及び塗料を、塗布することにより得られる。この塗布は、噴霧や、マーキングペン、刷毛、筆等による塗装のような任意の塗布方法で施される。塗布層9は、厚さ0.1mm以下に塗布されることが好ましい。

#### 【0043】

また、図1に示すように、熱可塑性樹脂、白色顔料、レーザー溶着に用いるレーザー光の波長を吸収する無色又は実質上無色の吸収剤、必要に応じて着色剤等の添加剤を混合機で混合しそれを成形して得られるレーザー光吸収性を全体的に有する樹脂部材2と、前記のような白色顔料を有する白色のレーザー光透過性の樹脂部材1とを重ね合わせ、レーザー光照射することにより、レーザー溶着する方法であってもよい。無色又は実質上無色のレーザー光吸収剤として、スクエア酸誘導体、インモニウム染料が挙げられる。

#### 【0044】

白色顔料及びレーザー光透過性黒色着色剤を含有する灰色のレーザー光透過性樹脂部材と、白色顔料及び黒色のレーザー光吸収剤を有する灰色のレーザー光吸収性樹脂部材とを重ね合わせ、レーザー光照射することにより、レーザー溶着する方法であってもよい。レーザー光透過性黒色着色剤として、黒色着色剤のマスター・バッチであるeBIND LT W-8000シリーズ（いずれもオリエント化学工業社製の商品名）を例示できる。黒色のレーザー光吸収剤として、カーボンブラック、アニリンブラック、ニグロシンが挙げられる。

#### 【0045】

白色顔料及び、黄色、赤色、青色、緑色のような有彩色のレーザー光透過性着色剤を含有する淡彩色のレーザー光透過性樹脂部材と、白色顔料及び有彩色着色剤及び無色又は実質上無色のレーザー光吸収剤を含有する淡彩色のレーザー光吸収性樹脂部材とを重ね合わせ、レーザー光照射することにより、レーザー溶着する方法であってもよい。有彩色のレーザー光透過性着色剤として、キノフタロン系黄色染料、ペリノン系赤色染料、黄色、赤色、緑色、青色、又は紫色であるアントラキノン系染料が挙げられる。

## 【0046】

白色顔料及び、黄色、赤色、青色、緑色の有彩色着色剤を有する淡彩色のレーザー光透過性樹脂部材と、白色顔料及び有彩色のレーザー光吸収剤を淡彩色のレーザー光吸収性樹脂部材とを重ね合わせ、レーザー光照射することにより、レーザー溶着する方法であってもよい。有彩色のレーザー光吸収剤として、フタロシアニン系青色、緑色染顔料、アントラキノン系染顔料(808nm波長用吸収剤)が挙げられる。

## 【0047】

異色のパステルカラーであるレーザー光透過性樹脂部材と、白色顔料及び有彩色のレーザー光吸収剤とをレーザー溶着する方法であってもよい。

## 【0048】

なお、何れのレーザー溶着方法であっても、レーザー光透過性の樹脂部材を構成する熱可塑性樹脂として、例えば、ポリアミド樹脂、ポリエチレン樹脂、ポリプロピレン樹脂、ポリブチレンテレフタレート樹脂、ポリエチレンテレフタレート樹脂、ポリフェニルスルフィド樹脂、ポリエーテルエーテルケトン樹脂、ポリカーボネイト樹脂、液晶ポリマー、ポリスチレン樹脂、アクリル樹脂、ポリアセタール樹脂、ポリフェニルエーテル樹脂、アクリロニトリル・スチレン共重合樹脂、アクリロニトリルブタジエン・スチレン共重合樹脂を用いてもよい。これらの樹脂を、単独で又は複数混合し、熱可塑性樹脂として用いる。熱可塑性樹脂は、ポリアミド樹脂、ポリプロピレン樹脂、ポリカーボネイト樹脂であると一層好ましい。また熱可塑性樹脂は、前記の樹脂を主に含む共重合体やその混合物；これらの樹脂にゴムやゴム状樹脂のようなエラストマーを配合した混合物；これらの樹脂を10重量%以上含有するポリマーアロイであってもよい。

## 【0049】

レーザー光透過性の樹脂部材を構成する熱可塑性樹脂として、これらの樹脂の中からレーザー光透過性が良好なものを、適宜選択して用いる。この樹脂部材は、用途及び目的に応じ適切な添加剤を含むものが用いられてもよい。添加剤として、充填材、難燃剤が挙げられる。

## 【0050】

前記充填剤としては、タルク、マイカ、炭酸水素カルシウム、炭酸カルシウム、ガラス繊維、ガラスフレーク、ガラスピーズ、ウォラスナイト、硫酸バリウムが挙げられる。充填剤は、成形性や強度を向上させるためのもので、熱可塑性樹脂100重量部に対し、5～50重量部含まれることが好ましい。白色系充填剤も適するが、レーザー光透過性を考慮するとガラス繊維が好ましい。ガラス繊維は、繊維長が2～15mm、繊維径が1～20μmのものが挙げられ、例えばロービング、ミルドファイバー等、何れの形態であってもよく、単独で、又は複数を組合せて用いてもよい。

## 【0051】

前記難燃剤として、公知の難燃剤、具体的には、テトラブロモビスフェノールA誘導体、ヘキサブロモジフェニルエーテル及びテトラブロモ無水フタル酸等のハロゲン含有化合物；トリフェニルホスフェート、トリフェニルホスファイト、赤リン及びポリリン酸アンモニウム等のリン含有化合物；尿素及びグアニジン等の窒素含有化合物；シリコンオイル、有機シラン及びケイ酸アルミニウム等のケイ素含有化合物；三酸化アンチモン及びリン酸アンチモン等のアンチモン化合物等が挙げられる。

## 【0052】

またその他、助色剤、分散剤、安定剤、可塑剤、改質剤、紫外線吸収剤又は光安定剤、酸化防止剤、帶電防止剤、潤滑剤、離型剤、結晶促進剤、結晶核剤、又は耐衝撃性改良用エラストマー等を添加剤として含んでいてもよい。この添加剤は、熱可塑性樹脂100重量部に対し、0.1～1.0重量部含有していることが好ましい。

## 【0053】

レーザー光吸収性を有する樹脂部材は、レーザー光透過性を考慮することなく、レーザー光透過性樹脂部材と同種又は異種の各構成成分を用いることができる。レーザー光透過性樹脂部材で例示したのと同様な、熱可塑性樹脂、白色顔料又は／及び各種着色剤、その

他の添加剤を含んでいるものが用いられる。白色顔料の量は、レーザー光透過性樹脂部材に含まれている量よりも過剰であってもよいが、レーザー光透過性樹脂部材に含まれている量と略同じである方が、色差のない溶着物を得ることができるので、好ましい。また、熱可塑性樹脂、白色顔料又は／及び各種着色剤、成形性と強度とを一層向上させるための充填剤や、難燃剤のような添加剤、更に用途及び目的に応じ助色剤、分散剤、安定剤、可塑剤、改質剤、紫外線吸収剤又は光安定剤、酸化防止剤、帯電防止剤、潤滑剤、離型剤、結晶促進剤、結晶核剤、又は耐衝撃性改良用エラストマー等を含んでいるものを用いてもよい。

#### 【0054】

レーザー光吸収性を有する樹脂部材に含まれる吸収剤として、カーボンブラック、ニグロシン、アニリンブラック、フタロシアニン、ナフタロシアニン、ポルフィリン、シアニン系化合物、ペリレン、クオテリレン、金属錯体、アゾ染料、アントラキノン、スクエア酸誘導体、インモニウム染料等を用いてもよい。なかでも安価で安定性の高いカーボンブラック又は／及びニグロシンが、特に好ましい。

#### 【0055】

レーザー光透過性の樹脂部材や、レーザー光吸収性の樹脂部材は、透明な熱可塑性樹脂のペレット又は粉末と、必要に応じ、白色顔料と、粉碎された着色剤及びその他添加物とを、混合機で混合し、それを射出成形、押出成形、圧縮成形、発泡成形、ブロー成形、真空成形、インジェクションブロー成形、回転成形、カレンダー成形、溶液流延などで例示される成形方法で、成形したものを用いると、好ましい。

#### 【実施例】

#### 【0056】

以下に、レーザー光透過性樹脂組成物を調製し、それを成形してレーザー光透過性の樹脂部材1である試験片を試作した製造例を示す。なお、本実施例で得られた試験片はレーザー吸収剤を含有する層を有するレーザー吸収性の樹脂部材の中間試験片としても用いる。

#### 【0057】

製造例1～7は、樹脂組成物を調製し、白色度が50～80のレーザー光透過性樹脂部材1である製造試験片を試作した例である。

#### 【0058】

(製造例1) レーザー光透過性の樹脂部材の製造試験片Aの試作

ポリプロピレン樹脂1000g(日本ポリケム社製 商品名：BC05B)とラウリン酸アルミニウムで表面処理された酸化チタン12g(ティカ社製 商品名：MT-100S)とを、ステンレス製タンブラーに入れ、1時間攪拌混合して組成物を調製した。得られた組成物を、射出成形機(東洋機械金属社製 商品名：Si-50)により、シリンダー温度220℃、金型温度40℃の条件で通常の成形方法で、図2のように、長辺70mm×短辺18mm×厚さ4mmの板状で、短辺の一端に沿う幅20mmの下面側が欠けて厚さ2mmの段差4を有する形状に射出成形したところ、色むらがなく色相が均一な白色で外観及び表面光沢が良好な製造試験片Aが得られた。その屈折率について、JIS K(-7142)アッペル屈折率を用い、プラスチックの屈折率測定方法に準じて測定した。(屈折率=1.67)

#### 【0059】

(製造例2～5) レーザー光透過性の樹脂部材の製造試験片B～Eの試作

製造例1に用いた酸化チタンに代えて、製造例2では同じ酸化チタンを36gを用い、製造例3では酸化亜鉛24g(ティカ社製 商品名：MZ-303)を用い、製造例4では三酸化アンチモン24g(堺化学社製 商品名：KN)を用い、製造例5では三酸化アンチモン36g(堺化学社製 商品名：KN)を用いたこと以外は製造例1と同様にして成形したところ、色むらがなく色相が均一な白色で外観及び表面光沢が良好な製造試験片B、製造試験片C、製造試験片D及び製造試験片Eが得られた。

#### 【0060】

## (製造例6) レーザー光透過性の樹脂部材の製造試験片Fの試作

ポリカーボネイト樹脂1000g(日本ジーイープラスチック社製 商品名:LEXAN 1000 難燃グレード(V-0))と酸化チタン12g(ティカ社製 商品名:MT-100S)とを、ステンレス製タンブラーに入れ、1時間攪拌混合して組成物を調製した。得られた組成物を、射出成形機(東洋機械金属社製 商品名:Si-50)により、シリンダー温度290℃、金型温度80℃の条件で通常の成形方法で、図2のように、長辺70mm×短辺18mm×厚さ4mmの板状で、短辺の一端に沿う幅20mmの下面側が欠けて厚さ2mmの段差4を有する形状に射出成形したところ、色むらがなく色相が均一な白色で外観及び表面光沢が良好な製造試験片Fが得られた。

## 【0061】

## (製造例7) レーザー光透過性の樹脂部材の製造試験片Gの試作

ポリアミド66樹脂1000g(デュポン社製 商品名:ZYTEL 101)と酸化チタン12g(ティカ社製 商品名:MT-100S)とを、ステンレス製タンブラーに入れ、1時間攪拌混合して組成物を調製した。得られた組成物を、射出成形機(東洋機械金属社製 商品名:Si-50)により、シリンダー温度280℃、金型温度60℃の条件で通常の成形方法で、図2のように、長辺70mm×短辺18mm×厚さ4mmの板状で、短辺の一端に沿う幅20mmの下面側が欠けて厚さ2mmの段差4を有する形状に射出成形したところ、色むらがなく色相が均一な白色で外観及び表面光沢が良好な製造試験片Gが得られた。

## 【0062】

前記製造例で得られたレーザー光吸収性樹脂部材の製造試験片について、以下のように透過率測定試験、白色度測定試験、及び色相観察試験を行い、物性を評価した。

## 【0063】

## (透過率測定試験)

分光光度計(日本分光社製 商品名:V-570型)に、製造試験片を夫々取り付け、試験片が有する厚さ2mmの段差4の部位(図2参照)に、400~1200nmの範囲の波長λを照射し、その透過率を測定した。そのうち波長808nmの透過率を、表1に示す。

## 【0064】

## (白色度測定試験)

試験片の各々が有する厚さ2mmの段差4の部位(図2参照)で、色差計(JUKI社製 商品名:JP7000)を用いて、L\*a\*b\*表色系で表されるL値とa値とb値を測定し、下記式(I)

## 【数4】

$$W_1 = 100 - \sqrt{(100-L)^2 + (a^2 + b^2)} \quad \cdots (I)$$

により白色度W<sub>1</sub>を算出した。その結果を表1に示す。

## 【0065】

## (色相観察試験)

各製造試験片について、目視により色相を観察した。その結果を表1に示す。

## 【0066】

【表1】

表1

	試作された 試験片	透過率 (%)	白色度 W <sub>1</sub>	色相
製造例 1	製造試験片 A	41	73	白色
製造例 2	製造試験片 B	40	66	白色
製造例 3	製造試験片 C	44	62	白色
製造例 4	製造試験片 D	39	65	白色
製造例 5	製造試験片 E	38	66	白色
製造例 1～5に使用のポリプロピレン樹脂		45	60	
製造例 6	製造試験片 F	30	74	白色
製造例 6に使用のポリカーボネート樹脂		35	74	
製造例 7	製造試験片 G	37	71	白色
製造例 7に使用のポリアミド樹脂		68	55	

## 【0067】

製造例 8～11は、樹脂組成物を調製し、白色度が少なくとも 80 のレーザー光透過性樹脂部材 1 である製造試験片を試作した例である。

## 【0068】

(製造例 8) レーザー光透過性の樹脂部材の製造試験片 H の試作

ポリプロピレン樹脂 1000 g (日本ポリケム社製 商品名：BC05B) と酸化チタンマスター パッチ 4.7 g (ルチル型酸化チタン 70重量%含有ポリプロピレン樹脂ベースマスター パッチ 東洋インキ製造社製 : 商品名：PP1KB662) とを、ステンレス製タンブラーに入れ、1時間攪拌混合して組成物を調製した。得られた組成物を、射出成形機 (東洋機械金属社製 商品名：Si-50) により、シリンダー温度 220℃、金型温度 40℃の通常の方法で、図2のように、長辺 70 mm × 短辺 18 mm × 厚さ 4 mm の板状で、短辺の一端に沿う幅 20 mm の下面側が欠けて厚さ 2 mm の段差 4 を有する形状に射出成形したところ、色むらがなく色相が均一な白色で外観及び表面光沢が良好な製造試験片 H が得られた。

## 【0069】

(製造例 9～11) レーザー光透過性の樹脂部材の製造試験片 I～K の試作

製造例 8 に用いたルチル型酸化チタンマスター パッチを製造例 9 では同じ酸化チタンマスター パッチ 7 g を用い、製造例 10 では酸化チタン 6 g (ルチル型酸化チタン テイカ社製 商品名：JR-605) を用い、製造例 11 では酸化チタン 9 g (テイカ社製 商品名：JR-605) を用いたこと以外は製造例 8 と同様にして成形したところ、色むらがなく色相が均一な白色で外観及び表面光沢が良好な製造試験片 I、製造試験片 J、及び製造試験片 K が得られた。

## 【0070】

(比較製造例 1)

ポリプロピレン樹脂 1000 g (日本ポリケム社製 商品名：B C 05 B) と酸化チタン 30 g (ティカ社製 商品名：J R - 605) とを、ステンレス製タンブラーに入れ、1時間攪拌混合して組成物を調製した。得られた組成物を、射出成形機(東洋機械金属社製 商品名：S i - 50)により、シリンダー温度 220℃、金型温度 40℃の通常の方法で、図2のように、長辺 70 mm × 短辺 18 mm × 厚さ 4 mm の板状で、短辺の一端に沿う幅 20 mm の下面側が欠けて厚さ 2 mm の段差 4 を有する形状に射出成形したところ、色むらがなく色相が均一な白色で外観及び表面光沢が良好な比較製造試験片 a が得られた。

## 【0071】

【表2】

表2

	試作された 試験片	透過率 (%)	白色度 W <sub>1</sub>	色相
製造例 8	製造試験片 H	27	88	白色
製造例 9	製造試験片 I	20	92	白色
製造例 10	製造試験片 J	21	90	白色
製造例 11	製造試験片 K	17	93	白色
比較製造例 1	比較試験片 a	6	96	白色
製造例 8～11 と比較製造例 1 とに 使用のポリプロピレン樹脂		45	60	

## 【0072】

製造例 12～15 は、添加剤を添加したレーザー光透過性ポリプロピレン樹脂組成物を調製し、レーザー光透過性のレーザー溶着樹脂部材 1 である製造試験片を試作した例である。

## 【0073】

(製造例 12) レーザー光透過性の樹脂部材の製造試験片 L の試作

製造例 1 のポリプロピレン樹脂と酸化チタンとに代えて、ガラス繊維ポリプロピレン 1000 g (日本ポリケム社製 商品名：H G 30 U) と酸化チタン 9 g (ティカ社製 商品名：J R - 403) とを各々用いたこと以外は、製造例 1 と同様にして成形したところ、色むらがなく色相が均一な白色で外観及び表面光沢が良好な製造試験片 L が得られた。

## 【0074】

【表3】

表3

	試作された 試験片	透過率 (%)	白色度 W <sub>1</sub>	色相
製造例 12	製造試験片 L	10	90	白色
製造例 12 に使用の ガラス繊維ポリプロピレン樹脂		41	64	

## 【0075】

(製造例 13～15) レーザー光透過性の樹脂部材の製造試験片 M～O の試作

製造例1の酸化チタンに代えて、製造例13では酸化チタン3 g（ティカ社製 商品名：MT-100S）及びレーザー光透過性着色剤の黒色マスターバッチ1 g（オリエント化学工業社製 商品名e BIND L TW-8170）を用い、製造例14では酸化チタン3 g（ティカ社製 商品名：MT-100S）及び着色剤 Nubian Yellow PO-1100 0.03 g（オリエント化学工業製商品名）を用い、製造例15では酸化チタン3 g（ティカ社製 商品名：JR-605）及び着色剤 Nubian Yellow PO-1100 0.03 g（オリエント化学工業製商品名）を用いたこと以外は製造例1と同様にして成形したところ、色むらがなく色相が均一な白色系で外観及び表面光沢が良好な製造試験片M、製造試験片N及び製造試験片Oが得られた。

## 【0076】

【表4】

表4

	試作された 試験片	透過率 (%)	白色度 W <sub>1</sub>	色相
製造例13	製造試験片M	43	39	青味の灰色
製造例14	製造試験片N	44	46	淡黄色
製造例15	製造試験片O	31	76	淡黄色
製造例13～15に使用のポリプロピレン樹脂		45	60	

## 【0077】

製造例16～17は、添加剤を添加したレーザー光透過性ポリカーボネート樹脂組成物を調製し、レーザー光透過性のレーザー溶着樹脂部材1である製造試験片を試作した例である。

## 【0078】

(製造例16) レーザー光透過性の樹脂部材の製造試験片Pの試作

ポリカーボネイト樹脂1000 g（日本ジーイープラスチック社製 商品名：LEXAN 1000 難燃グレード（V-0））と酸化チタン3 g（ティカ社製 商品名：MT-100S）とをステンレス製タンブラーに入れ、1時間攪拌混合して組成物を調製した。得られた組成物を、射出成形機（東洋機械金属社製 商品名：Si-50）により、シリンドー温度290℃、金型温度80℃の条件で通常の成形方法で、図2のように、長辺70 mm×短辺18 mm×厚さ4 mmの板状で、短辺の一端に沿う幅20 mmの下面側が欠けて厚さ2 mmとなる形状に射出成形したところ、色むらがなく色相が均一な白色で外観及び表面光沢が良好な製造試験片Pが得られた。

## 【0079】

(比較製造例2)

製造例16に用いたポリカーボネイト樹脂と酸化チタン3 gに代えて、ポリカーボネイト樹脂1000 g（商品名：LEXAN 1000）と酸化チタン36 g（ティカ社製 商品名：JR-605）を用いたこと以外は製造例16と同様にして成形したところ、色むらがなく色相が均一な白色で外観及び表面光沢が良好な比較製造試験片bが得られた。

## 【0080】

(製造例17) レーザー光透過性の樹脂部材の製造試験片Qの試作

製造例16の酸化チタン3 gに代えて、酸化チタン3 g（ティカ社製 商品名：MT-100S）及びレーザー光透過性着色剤の黒色マスターバッチ1 g（オリエント化学工業社製 商品名：e BIND L TW-8300）とを用いたこと以外は、製造例16と同様にして成形したところ、色むらがなく色相が均一な赤み灰色で外観及び表面光沢が良好な

製造試験片Qが得られた。

【0081】

【表5】

表5

	試作された 試験片	透過率 (%)	白色度 W <sub>1</sub>	色相
製造例16	製造試験片P	32	74	白色
比較製造例2	比較試験片b	7	94	白色
製造例17	製造試験片Q	30	39	赤味の灰色
製造例16～17と比較製造例2とに 使用のポリカーボネート樹脂		35	74	

【0082】

製造例18は、白色のレーザー光吸収性のレーザー溶着樹脂部材用の製造試験片を試作した例である。

【0083】

(製造例18) レーザー光吸収性の樹脂部材用の製造試験片Rの試作

ポリプロピレン樹脂400g(日本ポリケム社製商品名:BC05B)と酸化チタン3.6g(ティカ社製商品名:JR-605)とカーボンブラック0.4g(三菱化学社製商品名CB960)をステンレス製タンブラーに入れ、1時間攪拌混合した。得られた混合物を、射出成形機(東洋機械金属社製商品名:Si-50)により、シリンダー温度220℃、金型温度40℃の通常の方法で、図2に示す部材2のような長辺70mm×短辺18mm×厚さ4mmの板状で、短辺の一端に沿う幅20mmの上面側が欠けて厚さ2mmの段差5を有する形状に射出成形したところ、色むらがなく色相が均一で外観及び表面光沢が良好な灰色のレーザー光吸収性の樹脂部材用の製造試験片Rが得られた。

【0084】

製造例19は、カーボンブラックを含有する樹脂フィルムであるレーザー光吸収層8を有し、レーザー光吸収性の樹脂部材2である製造試験片Sを、試作した例である。

【0085】

(製造例19～21) レーザー光吸収性の樹脂部材の製造試験片S～Uの試作

ポリプロピレン樹脂400g(日本ポリケム社製商品名:BC05B)とカーボンブラック0.8g(三菱化学社製商品名:CB960)をステンレス製タンブラーに入れ、1時間攪拌混合した。得られた混合物を、薄い樹脂フィルム状のもの用の金型をと交換して、押出成形、(東洋機械金属社製商品名:Si-50)により、シリンダー温度20℃、金型温度40℃の通常の方法によりカーボンブラックが含有する樹脂フィルムを得た。

これを、前記製造例で得られた製造試験片の段差5(図2参照)上に、組み合わせることにより、レーザー光吸収性の樹脂部材2である製造試験片を得た。

レーザー光吸収性の樹脂部材として、下記の組合せの製造試験片を得た。

(1) 製造例19の製造試験片Sは、カーボンブラックが含有する樹脂フィルムとレーザー光透過性の樹脂部材として得られた製造試験片Jとの組合せの製造試験片である。

(2) 製造例20の製造試験片Tは、カーボンブラックが含有する樹脂フィルムとレーザー光透過性の樹脂部材として得られた製造試験片Mとの組合せの製造試験片である。

(3) 製造例21の製造試験片Uは、カーボンブラックが含有する樹脂フィルムとレーザー光透過性の樹脂部材として得られた製造試験片Fとの組合せの製造試験片である。

## 【0086】

製造例22～26は、レーザー光吸収剤を有するアルコール性マーキングペン用インキを調製し、それを前記製造試験片Rに塗布して、レーザー光吸収層9が付されたレーザー光吸収性の樹脂部材2である製造試験片V～Zを、試作した例である。

## 【0087】

(製造例22～26) レーザー光吸収性の樹脂部材の製造試験片V～Zの試作

ニグロシンベースEX	...	6部
エタノール	...	69部
ベンジルアルコール	...	5部
オレイン酸	...	10部
ケトン樹脂	...	10部

上記の配合物を40℃で均一に混合して溶解させることにより、インキを調製した。このインキの経時安定性試験を低温／高温器(商品名：INCUBATOR、三洋電機社製)にて調べたところ、3ヶ月間保存後においても、染料の析出、及びインキ組成物の増粘は認められなかった。このインキを、市販のマーキング用ペンに詰め、樹脂部材用の製造試験片の段差5(図3参照)上に塗布したところ、綺麗で均一なレーザー光吸収層9が付されたレーザー光吸収性の樹脂部材2である製造試験片を得た。

(1) 製造例22の製造試験片Vは、レーザー光透過性の樹脂部材として得られた製造試験片Kに上記のマーキングインキを塗布した製造試験片である。

(2) 製造例23の製造試験片Wは、レーザー光透過性の樹脂部材として得られた製造試験片Mに上記のマーキングインキを塗布した製造試験片である。

(3) 製造例24の製造試験片Xは、レーザー光透過性の樹脂部材として得られた製造試験片Fに上記のマーキングインキを塗布した製造試験片である。

(4) 製造例25の製造試験片Yは、レーザー光透過性の樹脂部材として得られた製造試験片Aに上記のマーキングインキを塗布した製造試験片である。

(5) 製造例26の製造試験片Zは、レーザー光透過性の樹脂部材として得られた製造試験片Cに上記のマーキングインキを塗布した製造試験片である。

## 【0088】

実施例1～10は、前記製造例で得られた製造試験片を用い本発明を適用するレーザー溶着を行った例である。比較例1は、本発明を適用外のレーザー溶着を行なった例である。

## 【0089】

図1のように、この試験片2の段差5と、前記の各々の試験片1の段差4同士とを当接させて重ね合わせた。重ね合わせた部位に、試験片1の上方から、出力30Wのダイオード・レーザー(ファインデバイス社製)を用いて波長840nmの連続的なレーザービーム3を、走査速度750mm/分で矢印方法に走査しつつ、照射した。試験片1を透過したレーザー光3が、試験片2で吸収されて発熱させ、その熱が、レーザー光吸収部位近傍で、試験片1と試験片2とを溶融させて融合させ、溶着させることにより、溶着物が得られた。

## 【0090】

## (引張強度測定試験)

得られた溶着物について、引張試験機(島津製作所社製AG-50kNE)を用いて、JIS K7113-1995に準じて、レーザー光透過性の樹脂部材1の製造試験片1とレーザー光吸収性の樹脂部材2の製造試験片とを引き離す方向に、10mm/分の速度で引っ張るという引張溶着強度測定試験を行った。引張溶着強度を表6に示す。

## 【0091】

## (溶着性評価)

レーザー溶着した接合部分の断面を目視で判定した。レーザー光を走査した部分に均一むらなく溶着があったものを○、レーザー光を走査した部分に溶着むらがあったものを×とする2段階で評価した。その結果を表6に示す。

【0092】  
【表6】

表6

	レーザー光透過性 樹脂部材の試験片	レーザー光吸収性 樹脂部材の試験片	引張強度 測定試験 (N)	溶着性評価
実施例 1	製造試験片 A	製造試験片 Y	204	○
実施例 2	製造試験片 J	製造試験片 S	250	○
実施例 3	製造試験片 K	製造試験片 V	215	○
実施例 4	製造試験片 M	製造試験片 T	328	○
実施例 5	製造試験片 M	製造試験片 W	285	○
実施例 6	製造試験片 J	製造試験片 R	245	○
実施例 7	製造試験片 M	製造試験片 R	298	○
実施例 8	製造試験片 I	製造試験片 S	185	○
実施例 9	製造試験片 F	製造試験片 V	275	○
実施例 10	製造試験片 F	製造試験片 X	267	○
実施例 11	製造試験片 C	製造試験片 Z	350	○
比較例 1	比較試験片 a	製造試験片 S	—	溶着せず
比較例 2	比較試験片 b	製造試験片 V	—	溶着せず
比較例 3	製造試験片 R	製造試験片 S	—	溶着せず

【0093】  
(色差測定試験)

色差計（JUKI社製 商品名：JP7000）を用いて、レーザー光透過性樹脂部材の試験片及びレーザー光吸収性樹脂部材の試験片の各々が有する厚さ2mmの部位（図2参照）における色差を測定した。実施例1～4、7～9と比較例1の組み合わせの各部材の色差を測定した結果を、表7に示す。

【0094】

【表7】

表7

実施例	色差
実施例1の組合せ	0.04
実施例2の組合せ	0.02
実施例3の組合せ	0.03
実施例4の組合せ	0.02
実施例7の組合せ	0.03
実施例8の組合せ	0.01
実施例9の組合せ	0.02
比較例1の組合せ	0.5

## 【0095】

表7から明らかなどおり、実施例のようにレーザー光透過性のレーザー溶着部材は、白色系の色相であって、レーザー光の透過性が良いため強固に溶着した。

## 【図面の簡単な説明】

## 【0096】

【図1】本発明を適用するレーザー光透過性樹脂組成物で成形したレーザー光透過性樹脂部材と、レーザー光吸収性樹脂部材とをレーザー溶着している実施途中を示す図である。

【図2】本発明を適用するレーザー溶着方法の実施をするためのレーザー光透過性樹脂部材と、レーザー光吸収性樹脂部材との構成を示す図である。

【図3】本発明を適用するレーザー溶着方法の実施をするためのレーザー光透過性樹脂部材と、レーザー光吸収性樹脂部材との別な構成を示す図である。

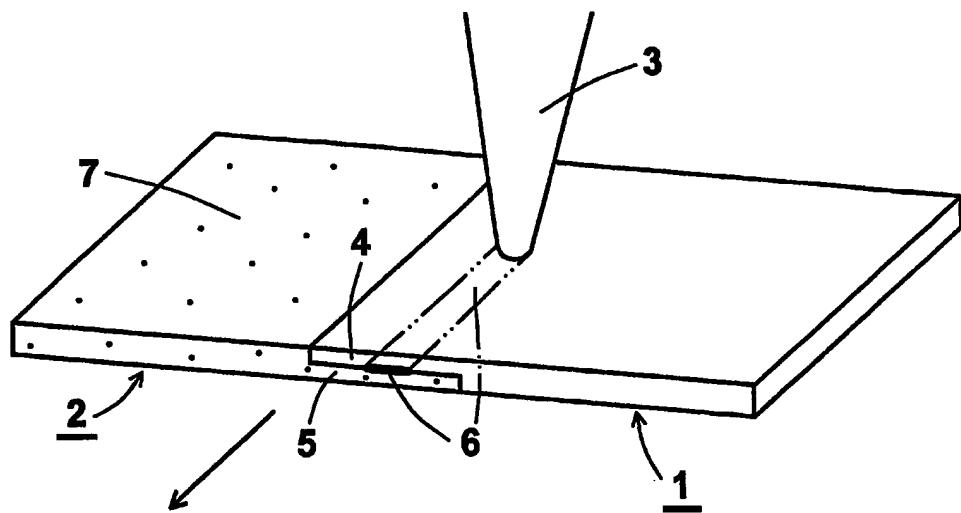
## 【符号の説明】

## 【0097】

1はレーザー光透過性の樹脂部材、2はレーザー光吸収性の樹脂部材、3はレーザー光、4・5は段差、6は溶着部位、7は白色系樹脂材、8はカーボン樹脂フィルム、9は塗布層である。

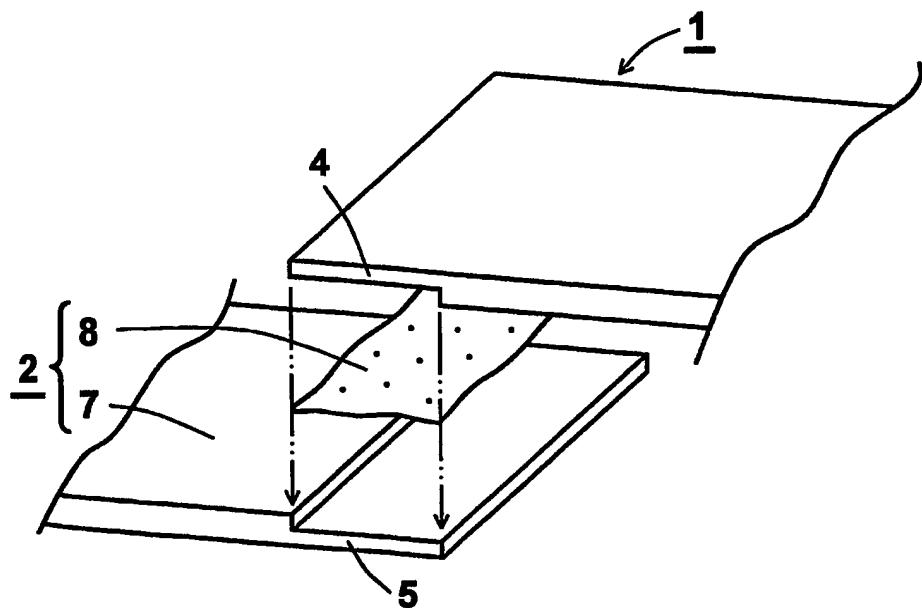
【書類名】図面  
【図 1】

図 1



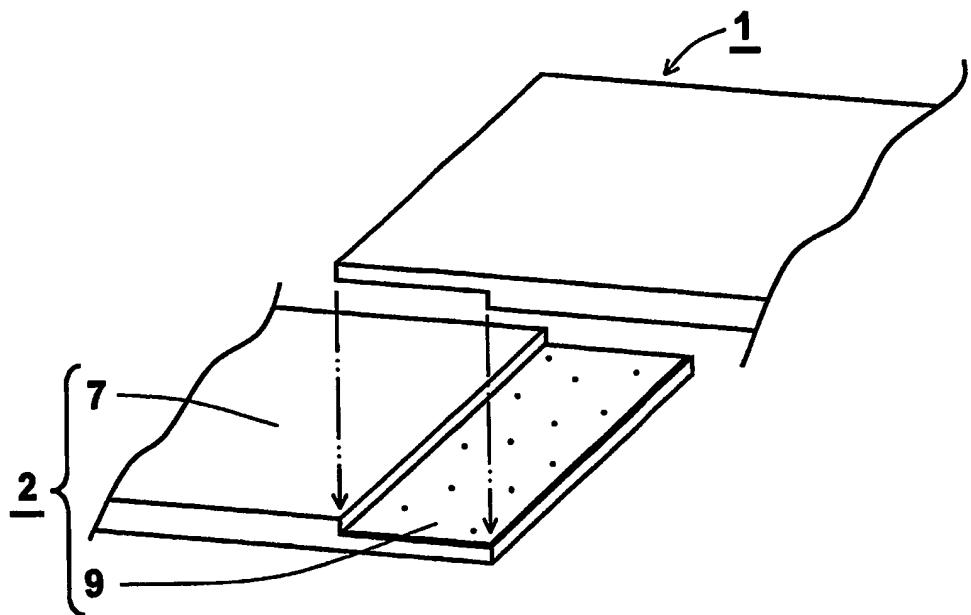
【図 2】

図 2



【図3】

図 3



【書類名】要約書

【要約】

【課題】

外観上、可視光線の反射率が高くて半透明性ないし不透明性であって、白色や灰色のような無彩色、又は淡赤や淡青や淡黄や乳白色のようなパステルカラーとよばれる淡彩色である白色系色相を示すレーザー溶着用樹脂部材を、レーザー光照射することにより、簡便に溶着することができるレーザー溶着方法を提供する。

【解決手段】

レーザー溶着方法は、熱可塑性樹脂100重量部と、屈折率2～2.8の白色顔料0.1～2重量部とを含有する樹脂組成物で、白色、灰色又は淡彩色である白色系の色相を示しているレーザー光透過性の樹脂部材1を形成し、それへ、レーザー光吸収性を少なくとも部分的に有し得る樹脂部材2を、重ね合わせた後、レーザー光3を照射することにより、熱溶着させるというものである。

【選択図】

図1

特願2003-303637

出願人履歴情報

識別番号 [000103895]

1. 変更年月日 1990年 8月31日

[変更理由] 新規登録

住所 大阪府大阪市旭区新森1丁目7番14号  
氏名 オリエント化学工業株式会社